

□最近の活動状況

【新年懇談会】

— 1月30日(水)ザ・セレクトン福島 —
講師 生田流箏曲演奏家 遠藤 千晶 氏
テーマ 「つなぐストリングス」

参加会員数 64名



講師 遠藤 千晶 氏

新年懇談会を福島市の「ザ・セレクトン福島」にて開催しました。

講演会に先立ち、高橋代表幹事が「会員企業同士の交流を図り、さらに前に進んでいきたい」と今年一年の県内経済の発展に向けて挨拶されました。

その後、生田流箏曲演奏家の遠藤千晶様（福島市出身）を講師にお招きして「つなぐストリングス」と題し、箏の歴史や奏法、音程の取り方など代表曲や実演を通

して紹介いただきました。また、3歳から箏の演奏を始めた自身の生い立ちについてのお話もありました。東京芸大大学院修了後、県内で箏を指導したり演奏会を開いたりして技術を磨いた経験が、後のオーケストラとの共演につながったとし「故郷福島に鍛えられ、夢をかなえることができた」と振り返りました。

懇親会では、新入会員・交代の挨拶が行われ、和やかな雰囲気のなか親睦を深めることができました。



【第22回朝食懇談会】

— 11月21日(水)ザ・セレクトン福島 —

講師 仙台国際空港株式会社
代表取締役 岩井 卓也 氏

テーマ 「仙台空港の実績と
東北各地域との連携について」

参加会員数 55名



講師 岩井 卓也 氏

○民営化

仙台空港は2016年7月に国管理空港としては全国で初めて民営化された空港です。

日本の空港は、道路の部分とターミナルビルの部分で、所有の主体、運営の主体が分かれていることが一般的な運営形態です。仙台空港の場合、ターミナルビルを宮城県と民間企業の第三セクター、駐車場や滑走路を国と、運営主体が分かれています。また、路線の誘致は県が担い、着陸料は国が一律で決めていました。これまで別々だった滑走路の管理と空港ビルの運営を一体化し、民間にその運営権を委託したことにより、コスト削減や効率化だけではなく、収益を上げるための攻めの運営が可能となりました。

○実績と取り組み

2017年度の旅客数は343万人と開港以来過去最高を記録しました。民営化前と比較して、国際線が倍近く、国内線は約20万人増えました。今世界中で飛行機の運賃が下がっています。運賃次第では国内にも潜在需要があり、人口減少、高齢化の時代を迎えています。まだ悲観する段階ではないと感じています。

民営化初日、「民営化したのに何も変わらない」というクレームを頂戴してから1年後、国内線到着ロビーのリニューアルが完成しました。みちのく観光案内を中心に、サービス機能を拡充しました。駐車場も従来の1,367台から1,759台に拡充し、ホームページで事前予約の受付を開始し、満空情報をリアルタイムで配信するサービスも始めました。



新規増便がお客様の利便性にとって重要です。民営化後、スカイマーク神戸線の再開や、Peachさんが仙台空港を拠点化し札幌線と台北線の就航、2018年に入りフジドリームエアラインズの出雲線就航と、新規就航を実現しています。

他にも、ビジネスラウンジの営業時間延長や、礼拝室の整備、国際線トイレの改修などお客様の利便性向上への取り組みをコツコツと積み上げています。

安全が一番重要ですので、滑走路等の点検や、バードパトロール、灯火等の保守管理など国業務の確実な引継ぎを行っています。また、事案発生時の対応能力向上と関係機関との連携を強化するため定期的に訓練を実施しています。

2018年4月から国内線保安検査場の方式を変えました。搭乗券確認と保安検査の2段階に分けることで、乗客が搭乗券の提示に手間取って手荷物検査の流れを止めることがなくなり、待ち時間の短縮に成功しました。

さらに、国内線専用の旅客搭乗棟(ピア棟)を増築しました。便数の増加に先立ち、十分な旅客取り扱い能力を拡充するため整備しました。延べ床面積が約6,000㎡、搭乗ゲートは5カ所で、徒歩ゲートが3カ所、バスゲートが2カ所、待合スペースや事務室なども備えています。ピア棟の搭乗ゲートと駐機場の間には、伸縮式の屋根付き通路「エプロンルーフ」を設置しましたので雨でもぬれずに搭乗できます。

○東北各地との連携

山形県の観光事業を受託していますが、台湾向けにはブロガーを誘致してブロガーが旅した情報の発信や、韓国ではテレビショッピングで海外旅行を申込みことが一般的ですから、山形ツアーのテレビショッピングを実施しています。このような連携を福島県とも行いたいと考えています。仙台空港発着の直行バスを生かした誘客が可能だと思っています。インバウンドに響く福島県内のコンテンツとしては、フルーツ。そ

れから、鶴ヶ城。お城は天守閣がないと外国人には伝わらないということがわかってきました。そして外国のサイトやSNSで大変話題になっている二本松のエビスサーキットなどがあります。これらと連携することで、国際線の安定、増便、さらには新規就航を実現していきたいと思っています。

「東北の空を、世界の空へ。」というスローガンのもと、東北の玄関口として地域の皆様とともに様々な変革に柔軟性を持って挑戦していきます。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

(文責:事務局)



□今後の予定

【第32回全国経済同友会セミナー】

日 時：2019年4月11日(木)～12日(金)
 会 場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
 テーマ：新時代へのイノベーション～ポスト平成の成長戦略を描く～

【第24回朝食懇談会】

日 時：2019年5月28日(火) 午前7時50分～
 会 場：ザ・セレクトン福島
 講 師：南相馬市立総合病院 地域医療研究センター長
 福島県立医科大学 特任教授 坪倉 正治 氏
 テーマ：相馬地方での医療の現状と健康問題

【通常総会】(詳細決まり次第ご案内申し上げます)

日 時：2019年6月28日(金)
 会 場：ホテル辰巳屋

□事務局だより

○2019年1月から3月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

新規入会		2019年1月入会 おおつき ひろた 大槻 博太 大槻電設工業(株) 代表取締役		2019年1月入会 むらかみ けいこ 村上 敬子 (株)サスティナビリティ 代表取締役
会員交代		2019年1月交代 よこやま よしかず 横山 芳一 とうほう証券(株) 代表取締役社長		

引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。(2019年3月8日現在 会員数 98名)

編集日誌

- ◇今回の会員企業紹介では、ユニークな商品名の「963ウイスキー」について福島県南酒販株式会社の山口社長にインタビューし、名前に込めた熱い思いなどお話を伺うことができました。
- ◇大人のお酒という印象があるウイスキー。「すこし愛して、なが〜く愛して」「女房酔わせてどうするつもり?」「恋は、遠い日の花火ではない」など大人を感じるキャッチコピーが多いからでしょうか?
- ◇不惑の年を超え、ウイスキーの味と深みがわかる大人になりたいと思い今夜は静かにゆっくりと「963ウイスキー」をいただきます。(今野)

□会員企業紹介 【第22回 福島県南酒販株式会社】

今年、創業70周年を迎える福島県南酒販株式会社の山口社長にインタビューしました。若者のお酒離れや少子化など酒類業界を取り巻く環境が大きく変化する中で、当社が開発した「963ウイスキー」についてお話を伺いました。

○創業の経緯

戦後間もない昭和24年7月、戦後の統制から新しい自由な営業を目指し、先輩同士が相計って当社の前身である「福島県南酒類商業協同組合」を興しました。



山口 哲行 代表取締役社長

お酒は、食文化を豊かにする彩りであり、人と人とのコミュニケーションの潤滑油であり、地域の重要な産業として、なくてはならないものだと確信しています。時代の変化とともに、消費者のお酒をはじめとした飲料や食品に対するニーズも多様化し、嗜好も様々に変化しています。私たちは、こうした環境変化に対応するために「まごころの奉仕」をすべての原点として行動し、酒類メーカーと小売店をつなぐ役割を果たすべく歩み続けて参りました。

○「郡山から世界へ」

自ら新商品開発も手掛けていることが当社の特徴であり、その第1号が2016年に発売を開始した「963ウイスキー」です。

郡山の風土が育てた「喜び・驚き・感動」を提供したいと考え、当社独自のウイスキーを企画し、ウイスキー造りで70年を超える歴史を持つ笹の川酒造(郡山市)さんのご協力をいただき完成しました。

名前の「963(きゅうろくさん)」は郡山市の郵便番号から付けたもので、「郡山から世界へ」という思いが込められています。現在、フランスやイギリスなどのヨーロッパに加え香港、オーストラリアなどへ輸出しており海外のお客様からも高い評価をいただいております。

963ウイスキーは5アイテムを展開しています。東北で唯一、全国でも数少ない地ウイスキー蒸留所である「安積蒸留所」を有する笹の川酒造が貯蔵してきた良質な原酒に、当社が厳選した原酒をブレンドしています。両社の熱い思いが詰め込まれている963ウイスキーの特徴は、カラメルを加えないナチュラルカラーと、ウイスキー本来の味わいを生かすために冷却濾過を行わないノンチルフィルタード製法です。多くのウイスキーは濁りを防

ぐため瓶詰前に冷却して濾過しますが、その際ウイスキーが本来持っている旨味や香りが取り除かれてしまいます。963ウイスキーは冷却濾過を行わないことで、より膨らみのある香りと芳醇な味わいを実現しました。

963ウイスキーは、商品化がゴールではなく、常に進化させていきたいと考えており、昨年12月に地元企業とのコラボ商品「ウイスキーボンボンショコラ」を発売しました。このような取り組みを通して、地元産品を発掘し発信していきたいと思っております。

○人生に彩を加える

今年創業70周年を迎えます。「暮らしに+α」というコーポレートメッセージのもと、独自の目線で「+α」の商品企画を提案して参りました。また、「+α」の情報を発信するため、魅力的な商材を見つけ紹介する季刊誌「KURASU_alpha」を発刊しています。女性社員が編集スタッフとなり、「おいしい日常、伝えます。」をテーマに、お酒に合う季節の料理や、地域の話、おすすめの一品など、自分たちで見つけた情報を提供しています。

これからも、人々の暮らしに寄り添い、暮らしを豊かに面白くするライフスタイル重視の目利きとして、商品の発掘と育成に努め、地域の皆様の幸せに貢献できるよう取り組んで参ります。



住 所 〒963-8863
郡山市菜根屋敷20-1
創 業 昭和24年7月30日
従業員数 120名
T E L 024-932-3250
U R L <http://www.kennan-syuhan.co.jp/>